

平成26年第5回庄原市議会定例会

一般質問通告者 及び 質問事項

9月16日～9月18日

質問順位

- | | | | |
|-----|------|-----|------|
| 1. | 近藤久子 | 2. | 松浦昇 |
| 3. | 横路政之 | 4. | 八谷文策 |
| 5. | 徳永泰臣 | 6. | 吉方文明 |
| 7. | 政野太 | 8. | 谷口隆明 |
| 9. | 坂本義明 | 10. | 福山権二 |
| 11. | 五島誠 | | |

庄原市議会

平成26年9月定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	近藤久子	庄原市地域防災計画について	1
		本市の教育環境づくりについて	2
		新しい教育委員会制度について	3
2	松浦 昇	広島市の大規模な土砂災害から教訓を引き出し、市内の災害対策に活かしてほしい	4
		支所職員を確保し、合併によるサービス等の低下の是正を	5
		鳥獣対策は駆除の視点のみでなく、大きく地域づくりをめざすものに	5
3	横路政之	公共施設等総合管理計画の推進について	6
		高齢者のボランティア（地域活動）ポイント制度について	6
		児童生徒の安全確保について	7
4	八谷文策	少子化対策について	8
		市街地における空き家対策について	9
5	徳永泰臣	本市の林業の現状と課題について	10
		林業政策の長期的な展望について	10
6	吉方明美	使用済み紙おむつの回収を無料化することについて	12
		本市の防災対策について	13
		女性消防団員の確保について	13
		県立東城高等学校及び西城紫水高等学校の存続を支援することについて	14
7	政野 太	本市の人口減少対策及び定住対策について	16
		本市の商工業振興について	17

順位	質問議員	質問項目	ページ
8	谷口隆明	平成の大合併の検証・総括を	19
		米価下落への対応は	20
		林地開発申請について	20
		帝釈理科講習会について	21
9	坂本義明	本市の表彰制度について	22
		庄原市民会館の長寿命化について	22
10	福山権二	バイオマス事業について	23
		指定管理者制度について	23
11	五島 誠	過疎をクリエイティブに生きる戦略について	25
		災害対応について	26

一般質問日程

9月 16日（火）近藤久子・松浦 昇・横路政之・八谷文策

9月 17日（水）徳永泰臣・吉方明美・政野 太・谷口隆明

9月 18日（木）坂本義明・福山権二・五島 誠

順位	1	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原市地域防災計画について	<p>先月の豪雨時の避難体制の反省と、本年6月に修正された「庄原市地域防災計画」を踏まえて、次の点について伺う。</p> <p>(1) 土砂災害警戒区域内の災害時要援護者関連施設における避難対策はいかに。</p> <p>(2) 「特別警報」発令時における保育児童の安全確保は万全か。</p> <p>(3) 災害時要援護者名簿の更新状況及び要援護者のニーズ把握による支援対策の充実はいかに。</p> <p>(4) 自主防災組織設置への支援状況、また避難支援中の事故等に関わる保険・補償制度について検討すべきではないか。</p> <p>(5) 避難場所については、立地条件やトイレ等の施設設備の再確認が必要であり、避難路を含め、住民参加型により再検討すべきではないか。</p> <p>(6) 防災計画の修正に当たっては、パブリックコメントを実施すべきではないか。</p> <p>(7) 市民の防災活動の促進に関する計画として、新規に地区防災計画の策定についての記述があるが、市民への周知と策定における主たる責任者はいかに。</p>		市長

順位	1	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 本市の教育環境づくりについて	<p>本市の教育行政施策について伺う。</p> <p>(1) 「ふるさとを愛する心で人が輝くまち」に向けた教育長の思いはいかに。</p> <p>-----</p> <p>(2) 本年6月12日に「庄原市いじめ防止基本方針」を策定。さらに、同月17日に初めて「庄原市学校・警察連絡協議会」が開催されている。いじめの防止に向けた、重点取り組みはいかに。</p> <p>-----</p> <p>(3) 「広島県教育のグローバル化10年展開構想(仮称)」が示され、意見交換会も実施されている。本市におけるグローバル化に対応する力の育成はいかに。</p> <p>-----</p> <p>(4) 特別支援教育の充実はいかに。</p> <p>-----</p> <p>(5) 戦争体験を風化させることのない平和教育の推進はいかに。</p> <p>-----</p> <p>(6) 芸術文化振興における図書館(本館・分館)の充実に向けた具体的な計画はいかに。</p>		教育長

順位	1	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 新しい教育委員会制度について	<p>来年4月1日にスタートする「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の施行に当たり、次のとおり伺う。</p> <p>(1) 最も危惧される「政治的中立性の確保」への認識はいかに。</p> <p>-----</p> <p>(2) 首長主宰の「総合教育会議」設置について、どのように考えているのか。</p> <p>-----</p> <p>(3) 開かれた教育委員会づくりについて、どのように考えているのか。</p>		教育長

順位	2	質問者	松浦 昇	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
<p>1. 広島市の大規模な土砂災害から教訓を引き出し、市内の災害対策に活かしてほしい</p>	<p>広島県は土砂災害危険箇所 32,000 カ所のうち、基礎調査済を 12,000 カ所としている。基礎調査を踏まえ、避難計画やハザードマップの作成が義務付けられる警戒区域、宅地開発が許可制となる特別警戒区域を指定することがある。</p> <p>(1) 本市では、基礎調査が行われた土石流危険溪流、急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域がそれぞれ何カ所あるのか、旧市町毎に示されたい。そして、その中には警戒区域、特別警戒区域の指定箇所があるのかどうか伺う。</p> <p>(2) 基礎調査について、早期に実施するためにも、県予算の増額を求めるべきと考えるが所見を伺う。</p> <p>(3) 国が4月に発表した勧告のガイドラインでは、「空振り」を恐れず判断するよう求めているが、本市は、災害時に安全な避難場所を確保し、市民の安心・安全を確保するために、発令基準をどのように見直したのかについて伺う。</p>			<p>市長</p>

順位	2	質問者	松浦 昇
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 支所職員を確保し、合併によるサービス等の低下の是正を	<p>今後も各支所が、総合支所としての機能を発揮し、すべての事務・サービスの提供が住民に行き届くように、合併協議会の決定を守ること。さらには、特に災害時の対応を考え、地域事情に精通した職員の配置について再検討が必要と考えるが所見を伺う。</p>		市長
3. 鳥獣対策は駆除の視点のみでなく、大きく地域づくりをめざすものに	<p>(1) 本市では現在、捕獲頭数が農作物の被害の減少にどのようにつながっているのか。また、捕獲したイノシシが、市内でどのように処分されているのかについて伺う。</p> <hr/> <p>(2) その中で、島根県美郷町は、平成11年頃から町民や研究機関と連携して、鳥獣対策、資源利用、地域づくりに根気強く取り組み、有機的に融合させ、町民の力を引き出し、地域に合った6次産業化につなげ、地域の活性化に成功していると聞く。美郷町の教訓に学び、本市の対策に活かすべきではないか。</p>		市長

順位	3	質問者	横路 政之	項目	質問の要旨	答弁を 求める者
1. 公共施設等総合管理計画の推進について	<p>地方自治体では、過去に建設された公共施設等が、これから大量に更新時期を迎える中、地方財政は依然として厳しい状況にあり、さらに、人口減少による今後の公共施設等の利用需要の変化が予測されるため、公共施設全体の最適化を図る必要がある。</p> <p>本年4月、総務省は「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」と題し、各都道府県知事などに対して計画の策定要請を行った。</p> <p>本市の計画策定をどう考えているのか。また、本市として具体的にどのような取り組みを行おうとしているのかについて伺う。</p>	市長				
2. 高齢者のボランティア（地域活動）ポイント制度について	<p>高齢者が地域のボランティア活動に従事することにより、社会参加や地域貢献が促されるとともに、介護予防にもつながるものとして大いに期待されている取り組みがある。</p> <p>これは、高齢者の「介護支援ボランティア」等と呼ばれるもので、介護予防を目的とした65歳以上の高齢者が、地域サロン、外出の補助、介護施設等でボランティア活動を行った場合に、自治体からポイントを付与するもので、貯まったポイントに応じて、商品との交換や換金のほか、介護保険料の支払いに充て、</p>	市長				

順位	3	質問者	横路 政之
項目	質問の要旨		答弁を 求める者
2. 高齢者のボランティア（地域活動）ポイント制度について	<p>保険料の軽減に利用できる自治体もある。その財源は、自治体の裁量により地域支援事業交付金の活用が可能である。</p> <p>本市において、現在、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組みを進めている中、全国に広がりを見せているこの制度を導入してはどうかと思うが、考えを伺う。</p>		市長
3. 児童生徒の安全確保について	<p>本年1月の神奈川県相模原市で起きた小学5年生女児の連れ去り監禁事件、7月の千葉県松戸市で起きた女児の連れ去り未遂事件等、近年、児童生徒に対する事件が続いている。このような事件は、本市においても起こる可能性がある。</p> <p>本市として、児童生徒の安全を確保する対策はどう講じているのか。防犯ブザー等、近年、子どもの安全対策を目的とした機器等の開発・販売が進んでいる。このような機器の配布も必要だと思うが、考えを伺う。</p>		教育長

順位	4	質問者	八谷 文策	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 少子化対策について	<p>少子高齢化対策について、原因と対策がいくつも挙げられながら、いまだその有効策が見いだせないままである。平成26年7月末の本市人口は38,543人、前年同月比マイナス550人。高齢者は15,219人で、高齢者比率39.5%。この50年で人口は半減し、子どもは6分の1、高齢者は2倍となっている。平成26年5月の庄原市社会福祉協議会長の資料によると、合併後では5,800人以上の人口減少となり、毎年約600人の減少となっている。昭和60年5月から本年4月までに、小学生は3,925人から1,720人となり56%減(50校から19校へ)。中学生は1,993人から885人となり56%減(9校から7校へ)。100人未満の学校は、小学校が19校中14校、中学校は7校中5校となっている。</p> <p>このような中、少子化対策について、市内就職者へ視点を向け、次の3点を伺う。</p> <p>(1) 平成19年度から平成21年度において、本市出身の子どもが、各年度で何人が高校を卒業し、現在、そのうち何人が市内に在住し、どのような仕事に就いているのか伺う。</p> <p>.....</p> <p>(2) 本市内に就職を希望する者の中で、市役所への就職を望む者がいるが、市職員採用時の応募資格に本市出身者枠を設けること</p>		市長	

順位	4	質問者	八谷 文策
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 少子化対策について	<p>について、全国でそのような事例はあるのか。また、本市において、このことが可能かどうか検討したことがあるのか。</p> <p>(3) 県立広島大学庄原キャンパスで学び、庄原市民として生活してきた学生に、市職員採用試験時の特典はつけられないのか。</p>		市長
2. 市街地における空き家対策について	<p>空き家の放置が問題になる中、市街地において、崩れかけた家屋が放置されているが、これらの管理方法を検討されたい。特に、市道沿いの危険家屋からの落下物が通行人を傷つけた場合の市道管理責任の所在、また、景観を損ねていることについて、どう考えているのか。個人財産の管理義務並びに所有権に及ぶ大変難しい問題ではあるが、積極的に取り組まなければ、事故になりかねないと考える。次の5点について伺う。</p> <p>(1) 他市における対応事例はいかに。</p> <p>(2) 今日まで、どのような対応をしてきたのか。</p> <p>(3) 所有権と危険物に対する考え方はいかに。</p> <p>(4) 本市の市街地に、空き家となっている老朽危険建物は何件確認しているのか。</p> <p>(5) その建物の解決方法について、所有者とどのように協議しているのか。</p>		市長

順位	5	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 本市の林業の 現状と課題に ついて	<p>次の点について、どのように認識し、取り 組もうとされているのか具体的に伺う。</p> <p>(1) 本市の人工林の採算林・荒廃林の把握 はできているのか。</p> <p>-----</p> <p>(2) 本市の樹種別の平均的立木価格につい て伺う。</p> <p>-----</p> <p>(3) 森林経営計画策定の現状と今後の見通 しについて伺う。</p> <p>-----</p> <p>(4) その中で、森林路網整備の進捗状況及 び将来の見通しについて伺う。</p>		市長
2. 林業政策の長 期的な展望に ついて	<p>本市の人工林が伐期を迎える中、集約化や 路網整備を進め、林業の採算性を高めること により、地域の雇用を安定させ、経済を活性 化させていくことが重要と考える。</p> <p>(1) 林業振興課を新設された意義について、 改めて伺う。</p> <p>-----</p> <p>(2) 本市林業の将来的なイメージについて 伺う。</p> <p>-----</p> <p>(3) 作業コストの削減に関する認識につい て伺う。</p> <p>-----</p> <p>(4) 森林組合とともに、森林組合の行う提 案型集約化施業を推進し、持続的な森林経 営、儲かる林業を進めていく必要があると 考えるが、見解を伺う。</p>		市長

順位	5	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 林業政策の長期的な展望について	(5) 県、市、森林組合が一体となって、プロジェクトチームを作り、この地域における林業振興を進めていく必要があると考えるが、見解を伺う。		市長

順位	6	質問者	吉方 明美
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 使用済み紙おむつの回収を無料化することについて	<p>本市は、ごみの減量化に向けて取り組みを進めているが、その方策の一つとして、平成17年度からごみ処理を有料化した。これにより、ごみ削減への市民の意識は大きく変化し、減量化に努力されているところである。</p> <p>しかし、高齢者世帯、子育て世帯では、努力しても減量できない、出さざるを得ない、生活ごみとしての紙おむつの問題がある。</p> <p>本市で紙おむつを必要とする高齢者世帯は約2,500世帯、乳幼児がいる家庭は約700世帯となっており、ごみの減量化に取り組めないこれらの家庭における経済的負担の軽減を図ることが必要だと考える。</p> <p>呉市、東京都三鷹市、秋田市などでは、紙おむつ等の処理について、各種の支援策が進んでいる。</p> <p>本市においても、紙おむつが必要な家庭に対して、何らかの形で支援することができないか。ごみ処理の有料化による減量化に取り組む一方で、介護、子育てなどを支援するという観点から、紙おむつの回収を無料にするなど、負担軽減をする意義は十分にあると考えるが、市長の所見を伺う。</p>		市長

順位	6	質問者	吉方 明美	答弁を 求める者
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 本市の防災対策について	<p>本年8月、広島市北部を襲った大雨により、多くの犠牲者が出ており、また、ライフラインも復旧せず、日々の生活に不自由を強いられている方々がいる。本市においても、平成22年7月に豪雨災害が発生し、多大な被害を受けたところである。</p> <p>広島県は、土砂災害危険箇所が全国で一番多い県であり、今後の対応が急がれるところであるが、本年8月5日、6日の本市での大雨への対応について、次の2点を伺う。</p> <p>(1) 本市では、土砂災害危険箇所を記した防災マップが配布されているが、どのように活かされたのか。</p> <p>-----</p> <p>(2) 住民への避難勧告などは、どのように行ったのか。十分な対応ができていたのか。</p>		市長	
3. 女性消防団員の確保について	<p>災害時における地域の消防団活動は、住民の安全確保のため、重要な役割を持つ。しかし近年、市民の高齢化に伴い、消防団員の減少がうかがえる。</p> <p>このような中、総務省消防庁は、消防団の充実強化を図るため、「男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の確立」に向けてフォローアップをすすとしている。</p> <p>(1) 本市の消防団に入団している女性団員は何人いるのか。</p>		市長	

順位	6	質問者	吉方 明美
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 女性消防団員の確保について	<p>(2) 総務省は、各消防団に団員総数の1割以上の女性消防団員を確保することが望ましいとしている。本市としては、女性消防団員がいることで、どのような意義があると考えているのか。</p> <p>(3) 今後、女性消防団員を募集する予定はあるのか。</p>		市長
4. 県立東城高等学校及び西城紫水高等学校の存続を支援することについて	<p>本市は、県内の自治体で唯一、複数の小規模校を抱えている。特に、東城高校、西城紫水高校は1学年1クラスという厳しい状況である。市外への進学を希望する生徒をとどめる方策が必要であることや、18歳までをいかに地元で育てるか、高校の役割は大きいとの声も出ている。</p> <p>全国的に少子化が進む中、広島県教育委員会は、県内に11校ある小規模校について、在籍80人以上の維持をめざすとしている。本年から3年間の活性化策を実施し、2年連続で80人未満となった場合、近隣の県立高校と統合させて分校化、地元中学との一貫校、統廃合の3つのうちいずれかを判断するとしている。</p> <p>現状を維持し、各高校を存続させるためには、高校の努力はもとより、行政の支援は欠かすことができないと思われる。</p>		市長

順位	6	質問者	吉方 明美
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
4. 県立東城高等学校および西城紫水高等学校の存続を支援することについて	<p>(1) 高校がなくなるとは、企業がなくなることと同様と考える。高校がなくなることのデメリットをどう認識しているのか。</p> <p>(2) 東城高校、西城紫水高校は、本年5月、行政と住民が学校活性化地域協議会を設立し、特色ある高校づくりをすべく協議を重ねている。現在、本市は教育振興補助金を協議会へ交付しているが、市内の高校を存続させるためのさらなる有効支援策はないか。</p> <p>(3) 平成27年度から、小規模校については、県外からの生徒募集が可能となっている。若者の定住対策の一環として、本市に在住するための環境を整備したうえで、市のホームページで高校を紹介したり、各種大会での挨拶の中で地元高校を紹介したりすることは、有効なPRになると思う。それにより本市の魅力が伝わり、地元中学からはもとより、県外からの高校受験者がふえるのではないかと考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>(4) 新年度において、学校の魅力を増すためのコーディネート等を行う業務支援員の高校への配置や、特色あるクラブ活動に必要な講師確保のための予算措置をすることを検討してみてもどうか。</p>		市長

順位	7	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 本市の人口減少対策及び定住対策について	(1) これからの10年の本市の方向性を定める長期総合計画を策定する上で、本市の人口をどのような認識のもとで推計されるのか、考えを伺う。		市長
	(2) 定住に対する施策を検討する上で、その成果目標をどこに置くのか、考えを伺う。		
	(3) 合併して10年、本市の人口推移を見ると、中山間地域の例に漏れず、人口減少の一途をたどっている。 そのような中、この10年間の本市の状況は、旧郡部においては約20%もの人口が減少し、旧総領町、旧比和町においては10%以上の世帯が減少している。一方、旧庄原市においては、人口こそ約8%減少しているものの、世帯数は約3%増加しており、これは定住対策を講じてきた一定の成果と考える。 これらの数値を見てみると、旧庄原市以外の地域においては大幅な世帯の減少、人口の減少が見られ、今後10年、さらに減少のスピードが加速すると思われる。そういった観点から、今後の定住対策の効果をさらに向上させるには、地域ごとの特性に合わせた、よりきめ細やかな定住対策が必要だと思うが、考えを伺う。		

順位	7	質問者	政野 太	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 本市の人口減少対策及び定住対策について	(4) 本年度より実施している定住促進施策「帰ろうや倶楽部」の現状と課題を、どのように認識されているのか伺う。 ----- (5) 本市の重要な課題でもある、若者定住に直接つながる婚活事業が、現在停滞していると思われる。一昨年までは、男女の出会いサポート実行委員会による、カープ観戦等、さまざまなイベントが実施されていたが、昨年度は実施されていない。ブライダルサポートセンターに至っては平成25年度をもって終了している。今後どのような形で婚活事業を展開されるのか、考えを伺う。	市長				
2. 本市の商工業振興について	(1) 庄原いちばんの3本柱の一つ、「地域産業のいちばん」には、「比婆牛ブランドの復活」、「木の駅プロジェクト」をはじめとした農林業についての施策が中心となっているが、市民が安心して豊かな生活を送るためには、個人商店を含む商工業の発展が不可欠と考える。去る6月20日の通常国会において、小規模企業振興基本法が成立し、6月27日に公布された。同法第3条では、「地域社会の形成において小規模企業の活力が最大限に発揮される事の必要性」がうたわれている。また、定住の視点からも「雇用の場の確保」は不可欠である。	市長				

順位	7	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 本市の商工業 振興について	<p>本市も積極的な商工業への支援が必要ではないかと思うが、考えを伺う。</p> <p>(2) 本市には、合併と同時に、庄原市中小企業振興条例が施行されているが、この条例は、旧庄原市が制定していたものを引き継いだ条例であり、その目的も中山間地域が抱える課題である「地域産業の発展」を促す条例としては、現状に浴うとは言えない内容だと思う。</p> <p>条例は、そこに住む市民の理解と協力を得て、地域ぐるみで中小企業を重視し、支援するという公の宣言として、地域の産業を励ます面もあると考える。また、行政職員の意識改革にもつながる重要な役割と効果をもたらすものである。</p> <p>そのため、庄原市中小企業振興条例について、現状に即した新たな視点のもとで改正すべきと考えるが、考えを伺う。</p>		市長

順位	8	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 平成の大合併 の検証・総括を	<p>平成の合併を選択した本市として、合併時の議論に立ち返り、合併の結果を検証し、今後の市政運営に活かすべきとの観点から質問する。</p> <p>(1) 「合併しないとやっていけない」は、事実だったのか。周辺部の人口減少が加速したのではないか。住民の自治意識は高まっているのか。このようなさまざまな視点があるが、行政としても合併の成果や問題点・課題の検証をすべきではないか。</p> <p>(2) 財政難を切り口に合併したが、合併後の財政構造は、当初の財政推計とは全く違う。標準財政規模の大幅拡大、歳入では普通交付税の大幅増、歳出では人件費の大幅減や扶助費の大幅増などが目立つ。財政指標はかなり改善してきているが、合併10年目の財政運営の評価と今後の見通しについて伺う。</p> <p>(3) 新たな広域連携の推進策として、地方中枢拠点都市(人口20万人以上)や、定住自立圏構想などが進められている。これは「集約・活性化」の名のもとに、周辺部への支援の放棄・切り捨てになるのではないか。また、新たな市町村合併や道州制への布石との見解もあるが、考えを伺う。</p>		市長

順位	8	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 米価下落への 対応は	<p>(1) 各地のJAで、2014年産のコメの概算金が発表されはじめており、JA庄原では9月5日発表の予定であるが、60キログラム当たり7,000円台から9,000円台が続出している。これは中山間地の条件不利地で農業を基幹産業とする本市にとって死活問題である。主食であるコメの需給と価格に国が責任を持つよう強く要請すべきである。特に今年は、国連が決めた国際家族農業年である。世界では、小規模、家族農業重視の方向に変わりつつある。その意味でも、米価の安定は欠かせない。市長の考えを伺う。</p> <p>-----</p> <p>(2) 今回の価格下落に対して、本市としてできる農家支援対策は何か、考えを伺う。</p>		市長
3. 林地開発申請 について	<p>東城町川東地区の飛田野呂に、新たな開発申請が出されているが、当初計画よりも大幅に事業が遅れていると思われる。進出企業の調査・評価や事業計画の実現性について、行政として調査をしているのか。法的に問題がないのであれば、行政としてのかかわりは難しいとは思いますが、長い経過を経てきた土地であるため、あえて伺う。</p>		市長

順位	8	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
4. 帝釈理科講習 会について	<p>第60回記念の帝釈理科講習会が終わり、貴重な記念誌も発行された。理科教育の発展と生涯学習の一環として、新しい形での継続を求める声大きい。自然科学、理科教育の材料の宝庫、帝釈峡で生まれた本事業の今後の方向性について、考えを伺う。</p>		教育長

順位	9	質問者	坂本 義明	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
				1. 本市の表彰制度について	本市における表彰制度の現状はどうか。 もっと多くの市民が対象となる幅広い対応とし、市民活動の活性化を図ってはどうか、考えを伺う。	市長
				2. 庄原市民会館の長寿命化について	庄原市民会館の建物施設の機能面における現状はどうか。また、リニューアルも含めた長寿命化について、どのように検討しているのか伺う。	教育長

順位	10	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. バイオマス事業について	<p>(1) 民間企業による事業継続が断念されたが、その後の国との協議状況について伺う。</p> <p>(2) この問題について、行政の課題と責任をどのように認識しているのか伺う。</p> <p>(3) 今後、この問題について、どのような方針で対応するのか伺う。</p>		市長
2. 指定管理者制度について	<p>(1) 去る3月議会における市長答弁では、指定管理施設の管理運営状況の把握について、指定管理後は「日々の業務や事業報告などにより、各所管課が運営状況の確認を行っている」としている。所管課の確認については、全課で共通した統一的確認基準が定められているのか伺う。</p> <p>(2) 去る6月議会で答弁のあった、保育所におけるアレルギー誤食対策はどのように進展しているのか伺う。</p> <p>(3) アレルギー誤食防止マニュアルの作成状況と、指導・監督体制の充実はどのように計画・実施されているのか伺う。</p> <p>(4) 指定管理者を選定する際、その資格要件として応募者にガイドラインを示すことについて、市長はこれに代わるものとして仕様書に条件を追加すると答弁している。 仕様書に追加する内容は、どのように検討され実行されているのか伺う。</p>		市長

順位	10	質問者	福山 権二	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 指定管理者制度について	<p>(5) 去る6月議会において、保育所での薬の飲ませ間違い、飲ませ忘れについて、市長は正式に調査して対応をとると答弁されたが、調査の内容と結果について伺う。</p> <hr/> <p>(6) 去る6月議会において、指定管理者選定委員会に利用者代表を構成員とすることを検討するとの答弁があったが、その検討結果を伺う。</p>		市長	

順位	1 1	質問者	五島 誠
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 過疎をクリエイティブに生きる戦略について	<p>人口減少社会、少子高齢化、過疎と言われて久しい庄原市。日本全国が人口減少社会に突入したこの時代、希望を持って創造し、過疎をマネジメントしなければならない時代にどう対応していくのか、次のとおり所見を伺う。</p> <p>(1) 今日までの人口推移をどう見ているのか。今後の人口数・人口構成をどのように考えているのか伺う。</p> <p>-----</p> <p>(2) 移住者政策をどう考えていくのか。空き家対策・活用も含めて、どのような人に移住してもらいたいかなど、より具体的にアプローチしていく必要があると思うが、所見を伺う。</p> <p>-----</p> <p>(3) トップセールスによる企業誘致の進捗状況及び企業の結びつけなど就労対策について所見を伺う。</p> <p>-----</p> <p>(4) 文化や自然が育む創造性が重要視されてきたが、残念ながら庄原いちばん計画などには文化の記述が一切ない。文化的施策についての認識を伺う。</p> <p>-----</p> <p>(5) さまざまな課題がある中で、木山市長の公約の進捗状況、今後の展望、そしてどのように過疎を克服し、地域を創造していくのか伺う。</p>		市長

順位	11	質問者	五島 誠
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 災害対応について	<p>本年8月、本市でも大雨による被害が発生し、また、広島市においては大規模な土砂災害が発生している。本市の被害に対して速やかに対応することはもちろん、被害に遭われた他市の方に、本市へ一時的に避難し、生活していただくなどの手を差し伸べる必要があると考えるが、所見を伺う。</p>		市長